

ハイ・デザイン商品開発事業 —木材と陶板の組み合わせによるインテリア商品のデザイン開発第2報)—

佐藤 茂*

1. 緒言

市場における消費者の商品選択要因の中で、デザインや生活スタイルへのこだわり志向が消費者ニーズの多様化や個性化、高級化となって現れており、特にこの傾向は生活日用品に顕著である。

一方、地場産業や伝統産業といわれる業種では、これら生活日用品の生産に係わるものが多く、プロダクト・アウトからマーケット・インの発想の転換がますます重要になってきている。しかし、現状では地場産業の多くが、消費者ニーズに対処する手だてを持たないといった問題点を抱えており、その商品も非日常的な商品領域のものが多いといえる。したがって、地場産業の発展や活性化のためには、その地域の風土、素材、技術、人材、地理的条件、地域社会の文化性などの資源を生かしつつ、非日常商品の生産から日常商品の開発への転換を図ることが最重要課題と言える。

当研究は、地場産業が持つ資源、技術を生かし、消費者ニーズにあった高付加価値商品の開発を通して地場産業の開発能力を育成するため、高いデザイン力(感性)を持つ先駆的な核(コア)となる商品の開発を目的としている。

本年度は、木材と陶板の組み合わせによるインテリア商品(プランター)の試作開発を行った。

2. 内容

2.1 開発の背景

室内用プランターの市場動向をみると他商品との差別化、あるいは付加価値を見い出すためか、陶器・磁器に木材や竹、藤などの自然素材を利用した商品が多く見られる。取っ手に蔓や蔦を巻き、コルクや藤を表面に装飾しているが、加工方法や接着法に改善の余地があるように見受けられる。

本開発は木材と陶板という異種材を接合、接着することによりプランターの新しい方向性を見出し、木と土の「対等融合」を目的とした開発を行った。

2.2 試作品の概要

室内用ということに重点を置き、中型の観用植物を想定し、内径ゆ230mm/高さ260mm、内径ゆ230mm/高さ300mmのやや大き目のものを試作した。

陶器

素地: 笠間焼杯土(せっ器質粘土)

成形: ロク口成形

釉薬: 青マット釉, 黒マット釉

焼成: 電気炉(1,250℃, 酸化焼成)

本部

素材: ケヤキ, ナラ

接着: シリコン

塗装: ウレタン塗装

3. 結果

試作品は3種類、10点を作成し、茨城県立県民文化センターで開催された「平成6年度ブライトいばらきデザイン展」に出展紹介し好評を得た。また、陶器の釉薬方法、本部の塗装方法によっては高級感を高めることができ、喫茶店やレストラン等業務用としての使用も考えられる。今後は商品としての市場性も含め、業界への普及指導をする予定である。

なお、陶器の製作については窯業指導所工芸部、木部の製作についてはゴライ工房、河野工作所の協力を得た事をこの誌を借りてお礼申し上げます。



図1 試作品

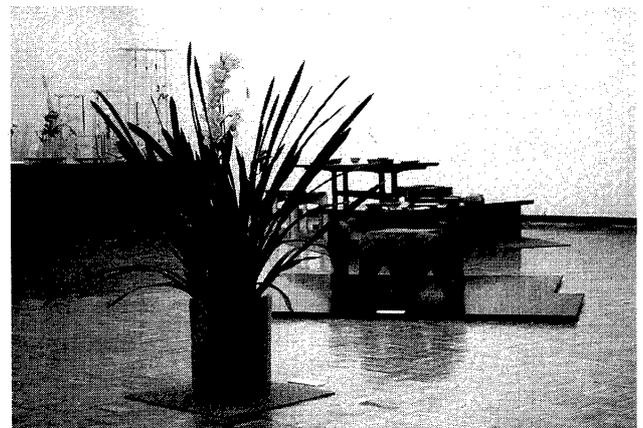


図2 展示会出展風景

*工芸・意匠部